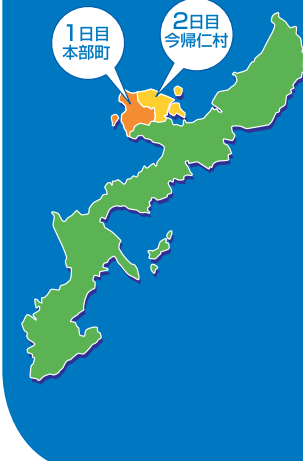


本部町・今帰仁村知事視察広聴

十月二十五日、二十六日の二日間にわたり、仲井真知事は、本島北部の本部町と今帰仁村を訪れ、地域の基幹産業である農林水産業の視察や住民の皆さんから意見を聞く広聴会を行いました。



本部町：第一日目



農業大学校での昼食

仲井真知事はまず県立農業大学校を訪れ、次世代農業の新たな担い手となる学生の皆さんと「知事と語る会」や昼食を取りながら意見交換を行いました。



栽培漁業センター視察



もとぶ牧場視察

その後、県栽培漁業センターを視察し、午後から本部町産業支援センターで知事広聴会を行いました。町長からはまちづくり事業など五つの要望事項が、住民代表の方からは三つの要望がありました。要望を受けて知事は「産業を振興して働く場所をつくり、失業率を改善していきたい。県も町も財政は厳しい状況であるが、お互い知恵を出し、前に進んでいきたい」と答えました。

ました。

今帰仁村：第二日目

問に知事は、「子供から老人まで健康で安全に暮らしていける社会をつくること」と答えました。生徒たちの鋭い質問に、知事も答えに苦慮する場面もありました。十六名と生徒数は少ないながらも古宇利小学校の元気な生徒の皆さんとふれあうことのできた貴重な時間となりました。

今回の視察広聴は、短い時間ではありましたが、直接地域の住民の方とお会いし、意見をうかがう良い機会となりました。



古宇利小学校児童との記念撮影

今帰仁村広聴会

児童との交流

今帰仁城視察

今帰仁村広聴会

※町村からの要望事項の詳細は県広報課のホームページに掲載されています

お問い合わせ【県広報課】 TEL:098-866-2020 FAX:098-866-2467

「飲酒運転をしないさせないゆるさない」強い意志と行動・取組で飲酒運転ゼロを！

県内の飲酒絡みの交通事故の比率は、人身事故・死亡事故とも全国ワーストワンで、人口千人当たりの飲酒運転検挙者数も全国平均の七倍となっています。

飲酒絡みの交通事故の現状

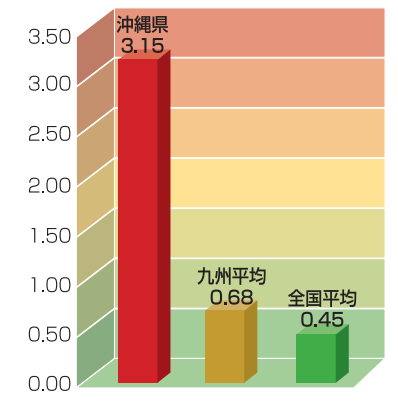
県内の飲酒絡みの人身事故は今年九月末の時点で八十二件で、前年同期と比べ九十八件(五四・四%)減少し、死亡事故は六件で前年同期より六件(五〇・〇%)減少しています。

しかし、全ての交通事故に占める飲酒絡みの交通事故の割合を全国と比較してみると、死亡事故が十二年連続、人身事故が十七年連続してワーストワンとなっており、



自分だけは大丈夫という甘い考えはダメ!

飲酒運転の検挙状況



人口千人当たりの飲酒運転検挙者数 (平成19年9月末現在)

昨年、飲酒運転で検挙された人は約九千人で、全国では二番目に多く、人口千人当たりでは全国平均の約七倍にもなります。また、一回の違反で即九十日以上の免許停止の対象となる〇・二五mg/l

今年も九月末の時点でワーストワンという厳しい状況が続いています。



飲酒運転による事故

以上のアルコールが検知された人の検挙は約六千件で、飲酒運転で検挙された人の七〇%を占めています。これは沖縄に次いで多い東京の二倍近い数となっています。

今年、道路交通法の一部が改正され、飲酒運転の罰則が最高で五年の懲役又は百万円以下の罰金となり、改正前の二倍に引き上げられています。

また、

- 飲酒運転をするおそれがある者に車を貸した者、酒を提供した者
- 運転手が酒を飲んでいながら、車を乗せてくれるよう頼んだ者

飲酒運転根絶に向けて

各界・各地域での飲酒運転根絶に対する様々な取組が功を奏し、飲酒絡みの事故は減少傾向にあります。今後さらに飲酒運転がなくなるようにするためには、私たち一人ひとりが「飲酒運転をしないさせない 許さない」という強い意志と行動を持った取組を強化していく必要があります。安全で安心して生活できる沖縄県にするため、県民の皆さまのご協力をお願いします。



お問い合わせ【県警察本部交通企画課】 TEL:098-862-0110 (内線 5031)